

中間決算説明会

第31期(2008年3月期)

2007.11.20

アマタ株式会社

(証券コード:2490)



<http://www.amita-net.co.jp>

アミタの事業ドメイン

P 2

2008年3月期中間決算概要

P 4

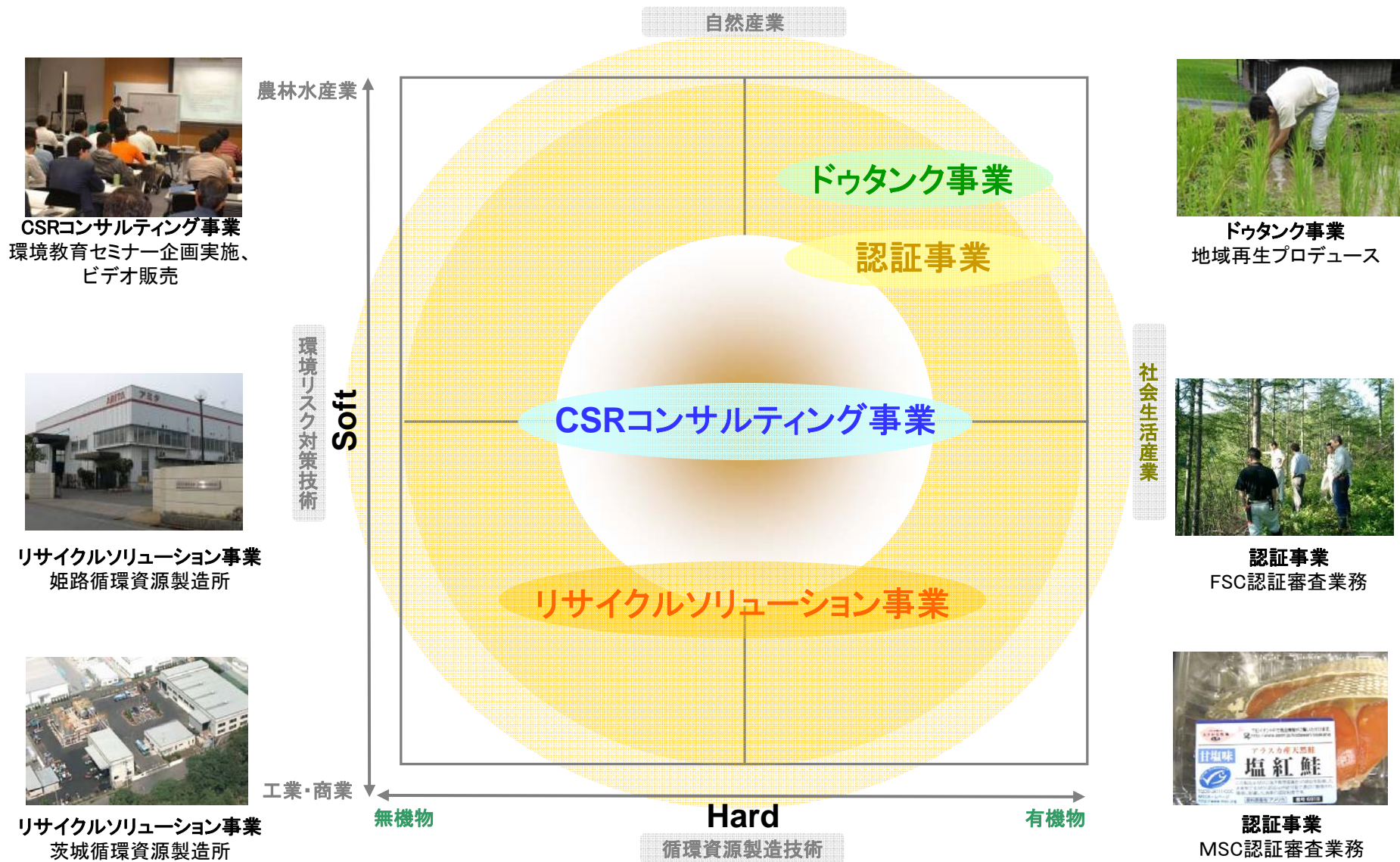
2007年12月期予想と重点施策

P 14

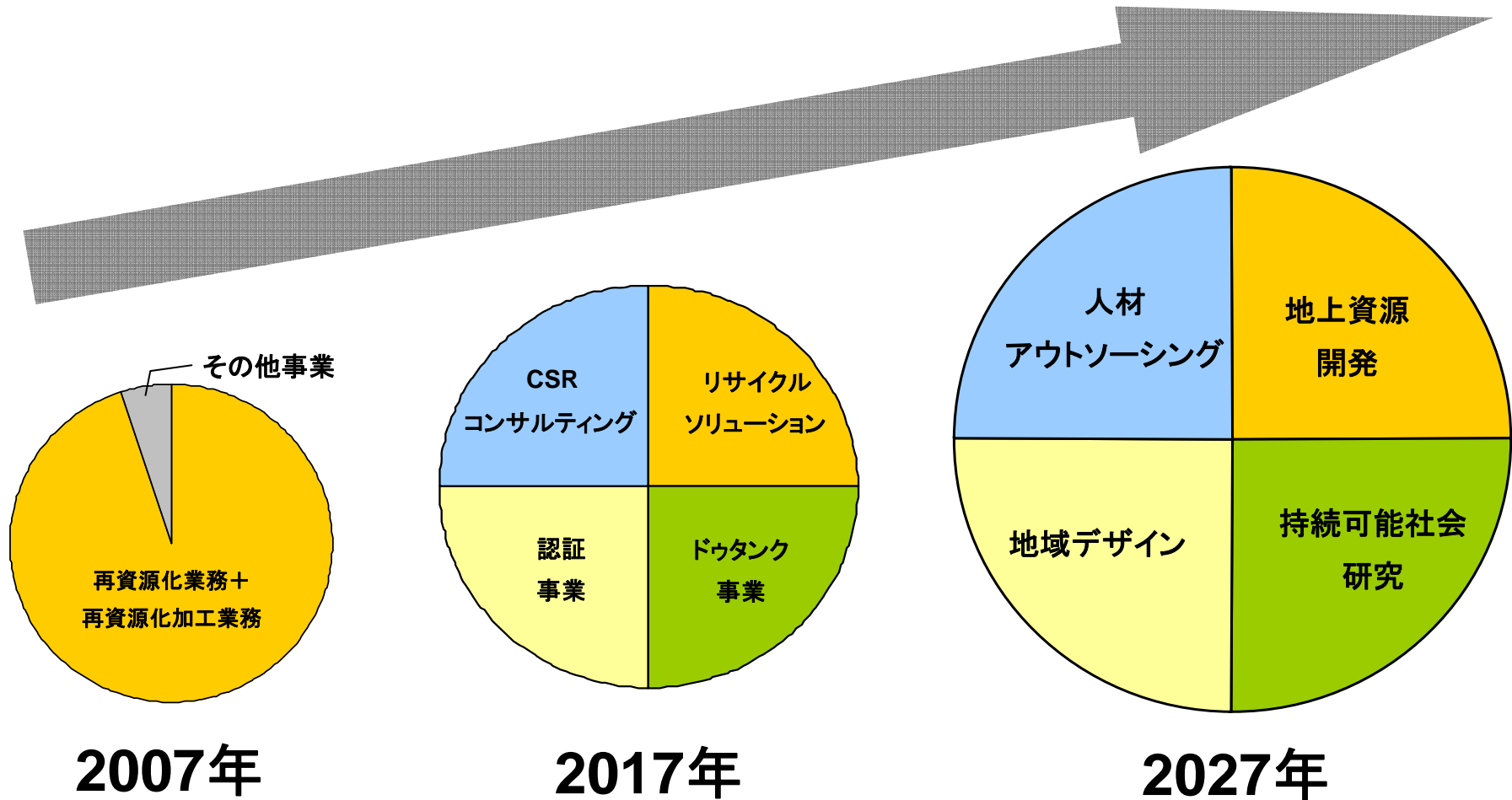
参考資料

P 20

アミタの事業ドメインマップ



アマタの事業ドメインの進化



環境ビジネスの市場規模は、2000年：29兆円、2010年：47兆円、2020年：58兆円と予想されている。
当社が事業展開する環境防止、資源有効利用、環境負担低減技術および製品という分野でも、
2000年：11兆円、2010年：17兆円、2020年：21兆円と、拡大が予想されている。

「平成16年度循環型社会白書(環境省)」参照

2008年3月期中間決算概要

決算期の変更予定
毎年3月31日→毎年12月31日

決算期変更の目的

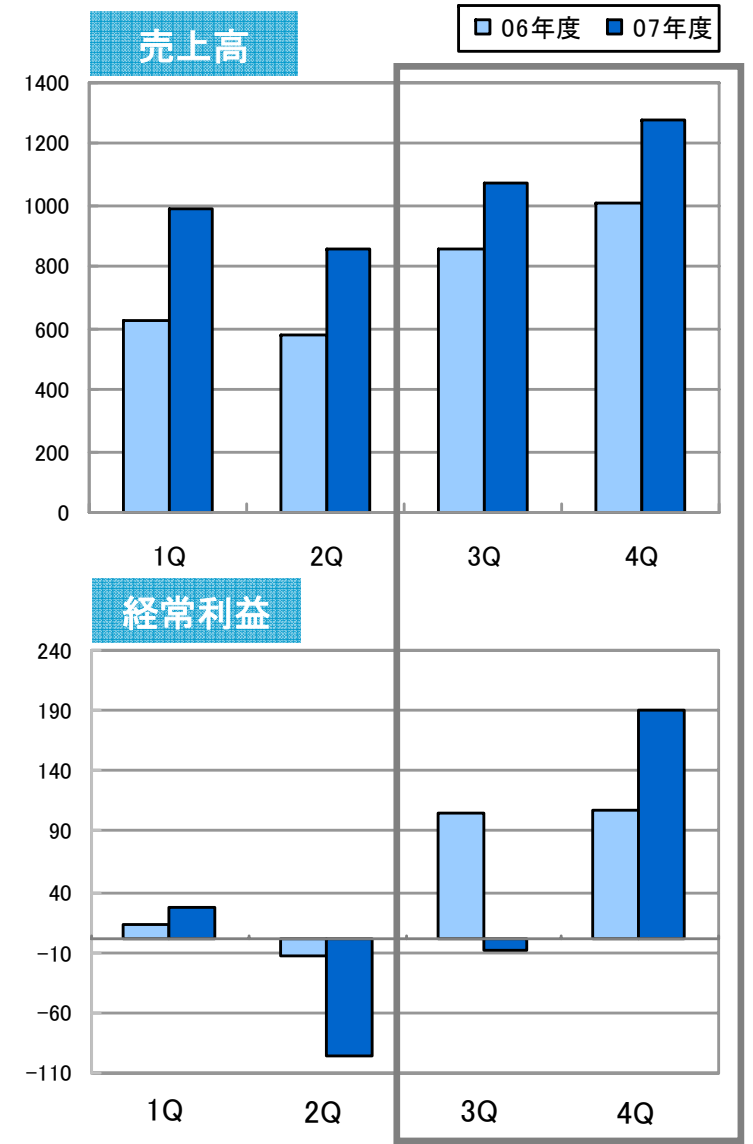
当社事業の繁忙期と決算期の重複を避け、適時適切な開示と業務運用効率の向上を行なう

決算期変更による影響

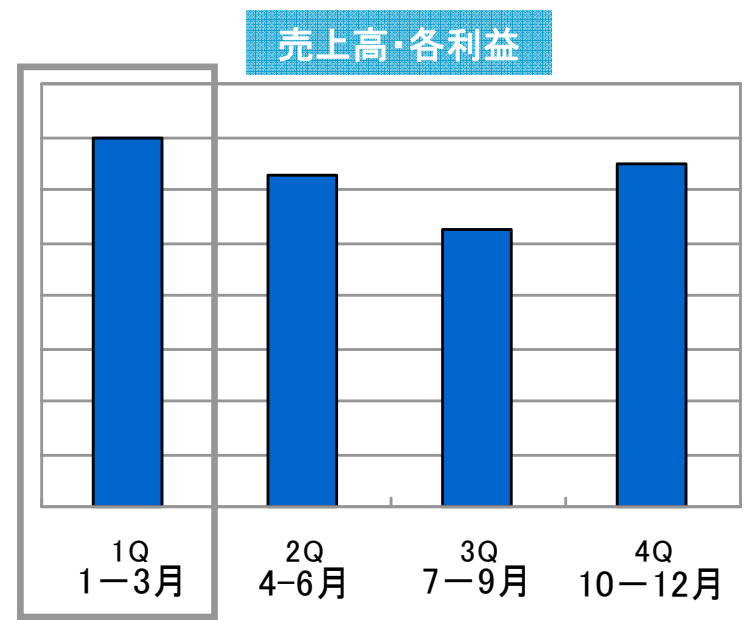
- ・事業上の繁忙期と決算期の重複を避け業務運営の効率化を図る
- ・売上、利益の下期偏重を改善し、業務予測精度を高めることでより効果的な事業計画の立案に寄与

決算期変更について

これまでのトレンド 売上・利益下期偏重型



今後のイメージ



第1四半期(3月)が
収益のピーク

当社は、環境への負荷低減と社会の持続的な発展を両立する「持続可能社会」を実現する「総合環境ソリューション企業」を目指し「環境ソリューション事業」の強化・拡大を図ってまいりました。

業績は増収増益を達成

売上高	2,227百万円	： 前期比+377百万円、20.4%増
		→日化スミエイト(株)の吸収合併に加えて、姫路製造所でのセメント原料の受入が増加したことにより再資源化加工売上が増加しました
営業利益	1百万円	： 前期比+39百万円
		→製造原価、販売管理費ともに増加しましたが、増収の効果によりプラスに転じました
経常利益	0.1百万円	： 前期比+68百万円
中間純利益	3百万円	： 前期比+45百万円

業績の概要

(単位:百万円)

	2008年3月期 中間当初予想	2007年3月期 中間	2008年3月期 中間	前年同期差
売上高	2,123	1,849	2,227	+377
再資源化売上	—	839	785	△54
再資源化加工売上	—	943	1,334	+391
その他売上	—	67	108	+40
営業利益	△43	△37	1	+39
経常利益	△58	△68	0.1	+68
当期純利益	△23	△41	3	+45

主な増減要因(前年同期比)

売上高:20.4%増

日化スミエイト㈱の吸収合併に加えて、姫路製造所でのセメント原料の受入が増加したことにより、再資源化加工売上高が増加しました。

営業利益:

吸収合併による製造原価、販売管理費の増加等もありましたが、再資源化加工の増収効果によりプラスに転じました。

経常利益:

新規上場関連費用がなくなったことや、営業利益の増加によりプラスに転じました。

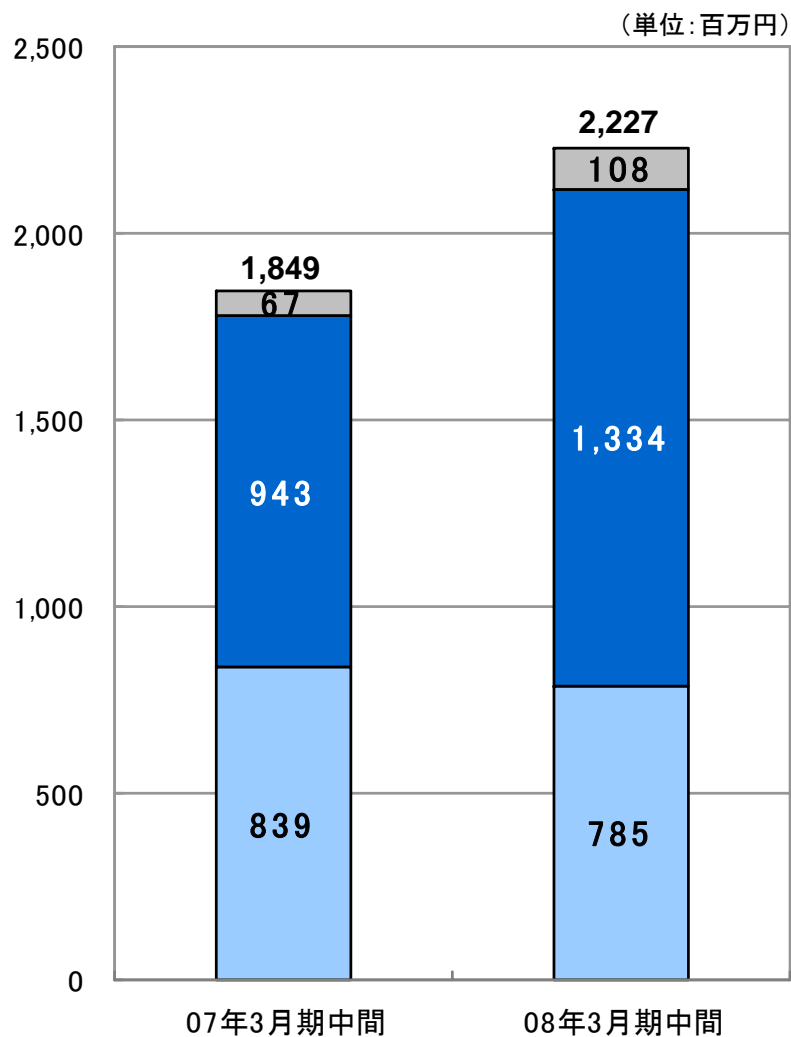
当期純利益:

経常利益の増加により、プラスに転じました。

売上高・経常利益比較

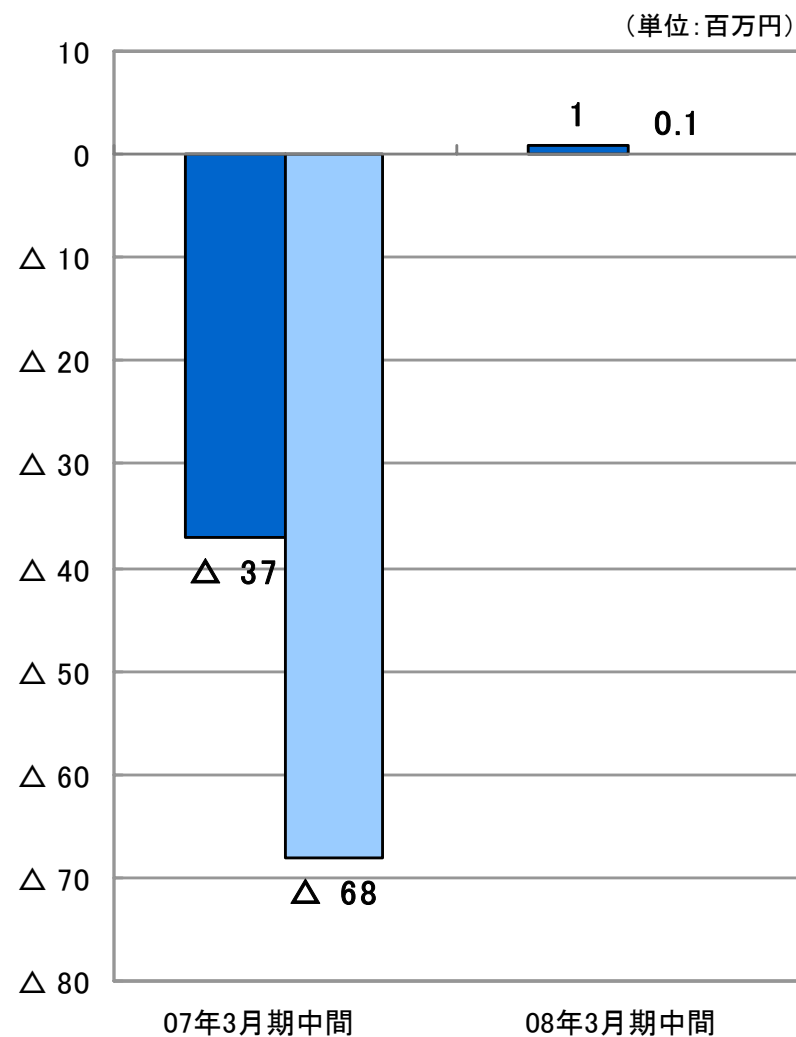
売上高

- その他売上
- 再資源化加工売上
- 再資源化売上



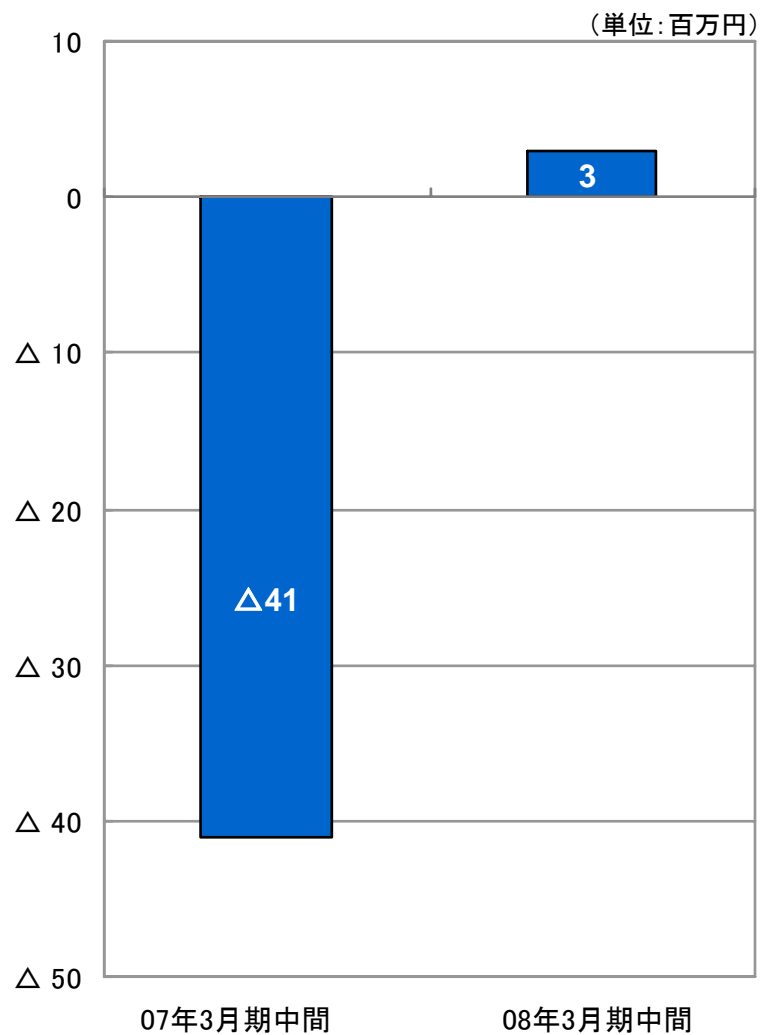
営業利益・経常利益

- 営業利益
- 経常利益

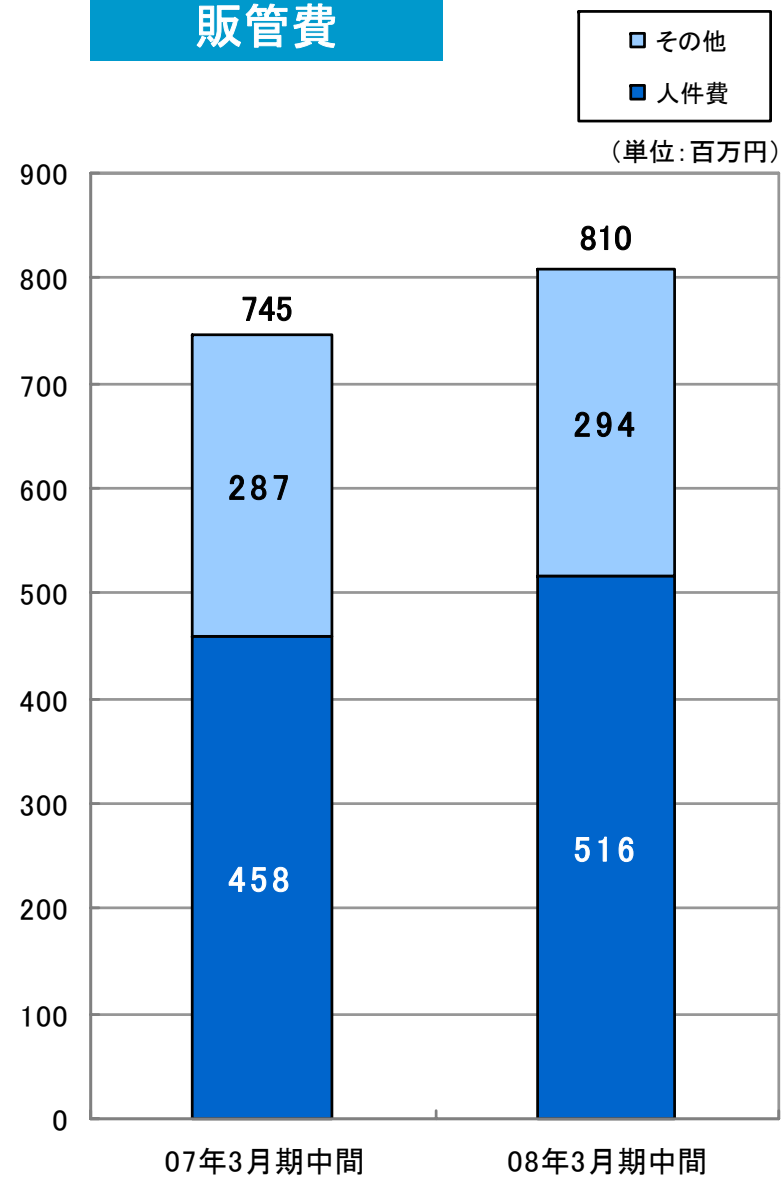


当期純利益・販管費比較

当期純利益



販管費



貸借対照表比較

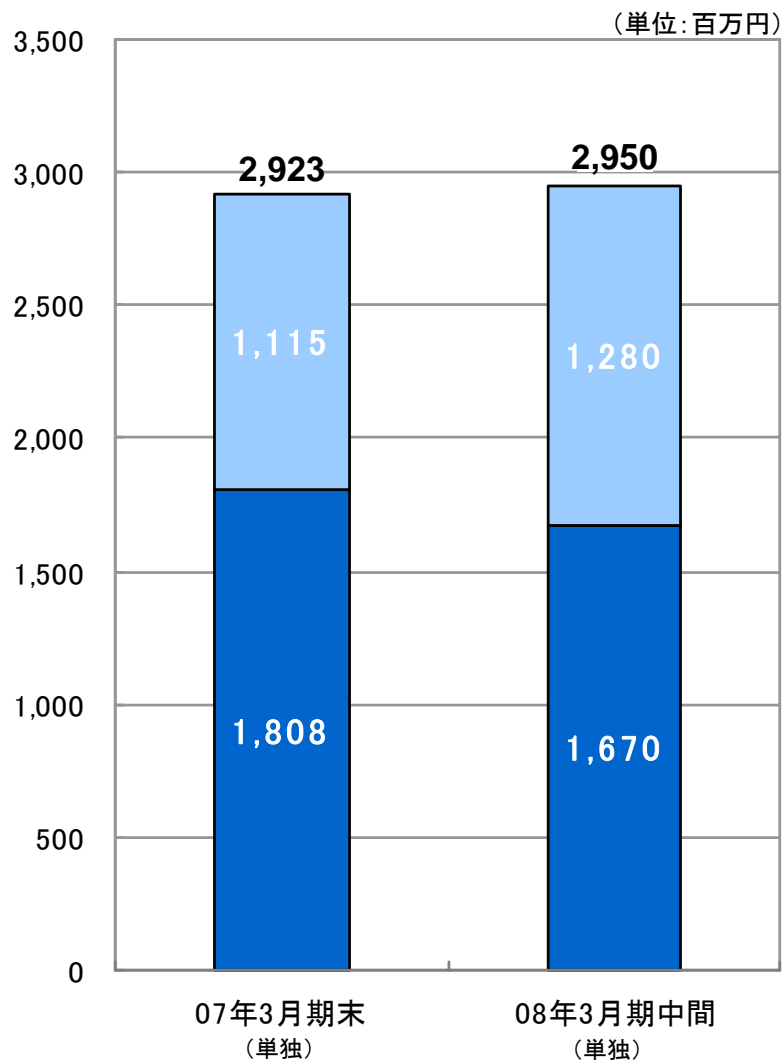
(単位:百万円)

	07年3月期末 (単独)	08年3月期中間 (単独)	前期末差
流動資産	1,115	1,280	+165
固定資産	1,808	1,670	△138
資産合計	2,923	2,950	+27
流動負債	982	956	△26
固定負債	729	785	+56
負債合計	1,711	1,741	+30
資本金・資本剰余金	859	874	+14
利益剰余金	350	335	△14
評価換算差額	3	0	△3
純資産	1,212	1,209	△3
負債純資産合計	2,923	2,950	+27

貸借対照表比較

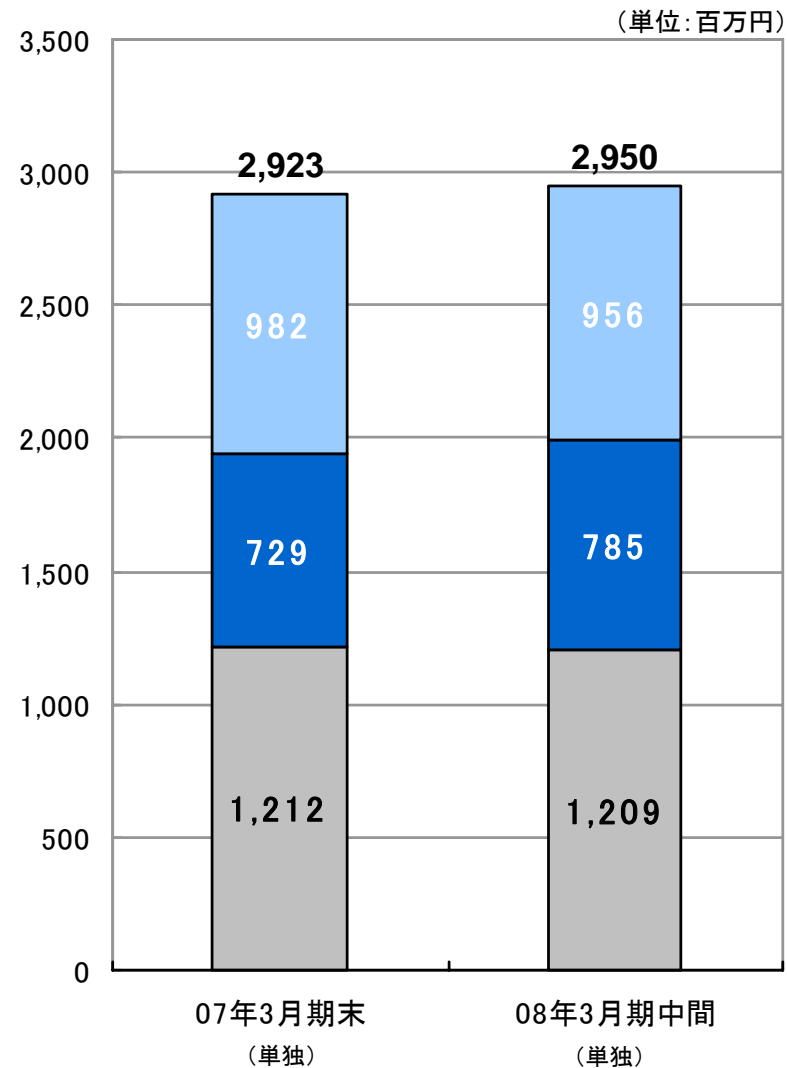
資産の部

- 流動資産
- 固定資産



負債純資産の部

- 流動負債
- 固定負債
- 純資産



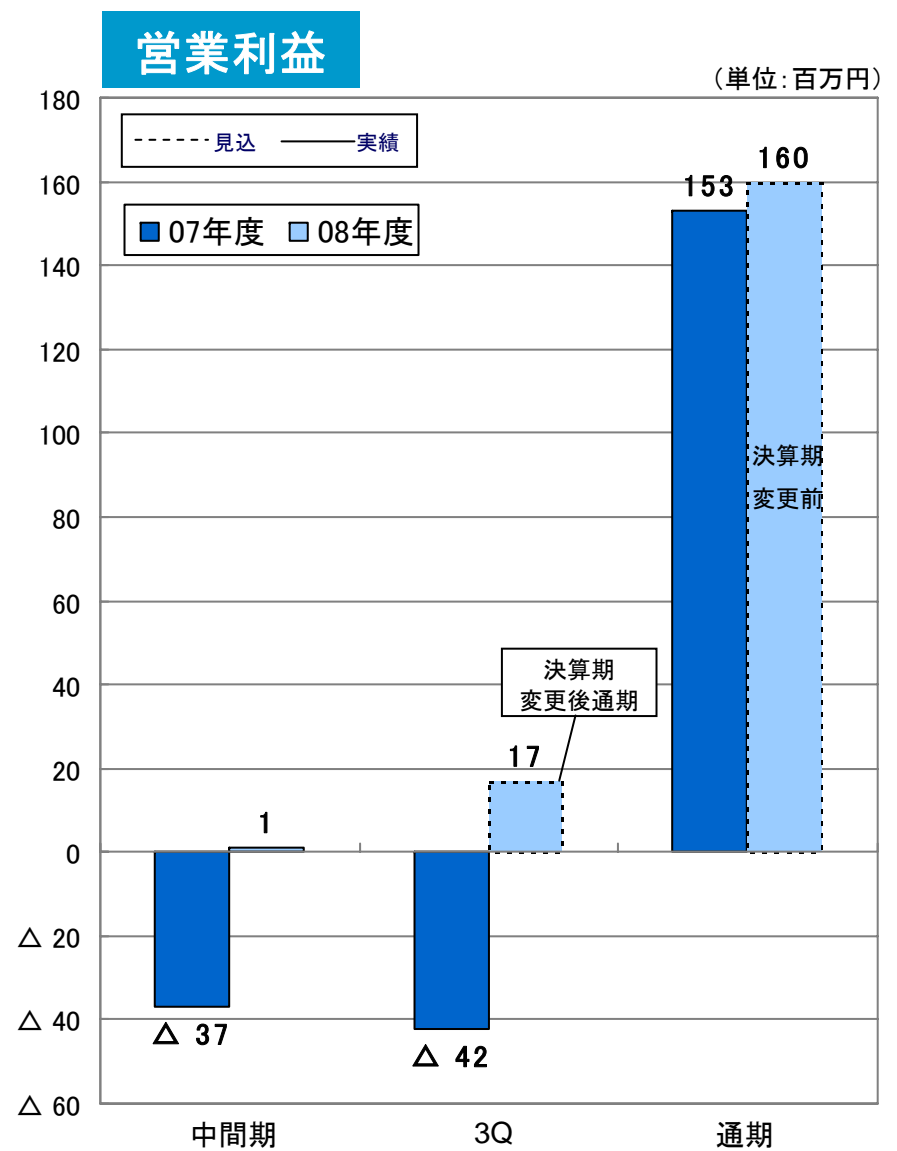
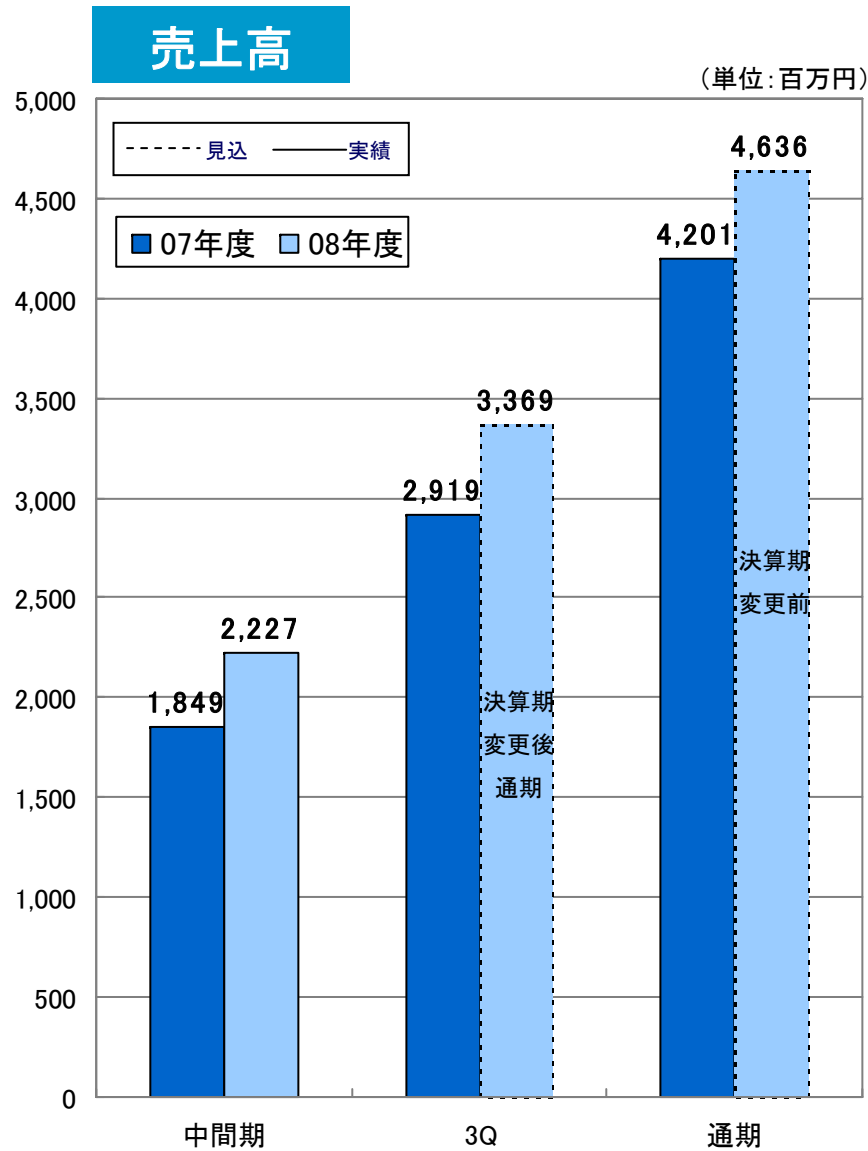
キャッシュ・フロー計算書推移

(単位:百万円)

	07年3月期中間	08年3月期中間	前年同期差
営業活動による キャッシュ・フロー	△72	215	+287
投資活動による キャッシュ・フロー	△81	△15	+66
財務活動による キャッシュ・フロー	94	40	△54
現金及び現金同等物の増減額	△57	240	+297
現金及び現金同等物の期末残高	417	479	+61

2007年12月期業績予想と重点施策

2007年12月期通期業績予想

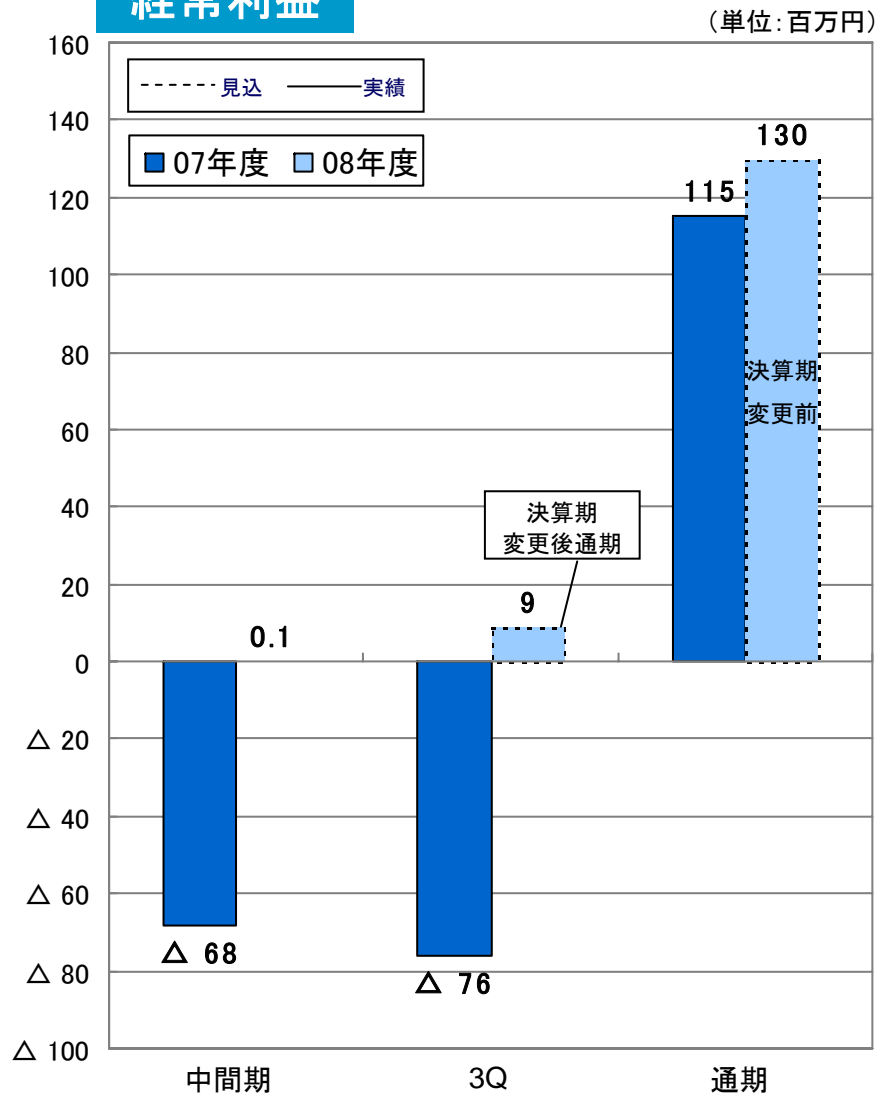


※07年度通期の数値のみ、連結の数値となっております。
 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。
 実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

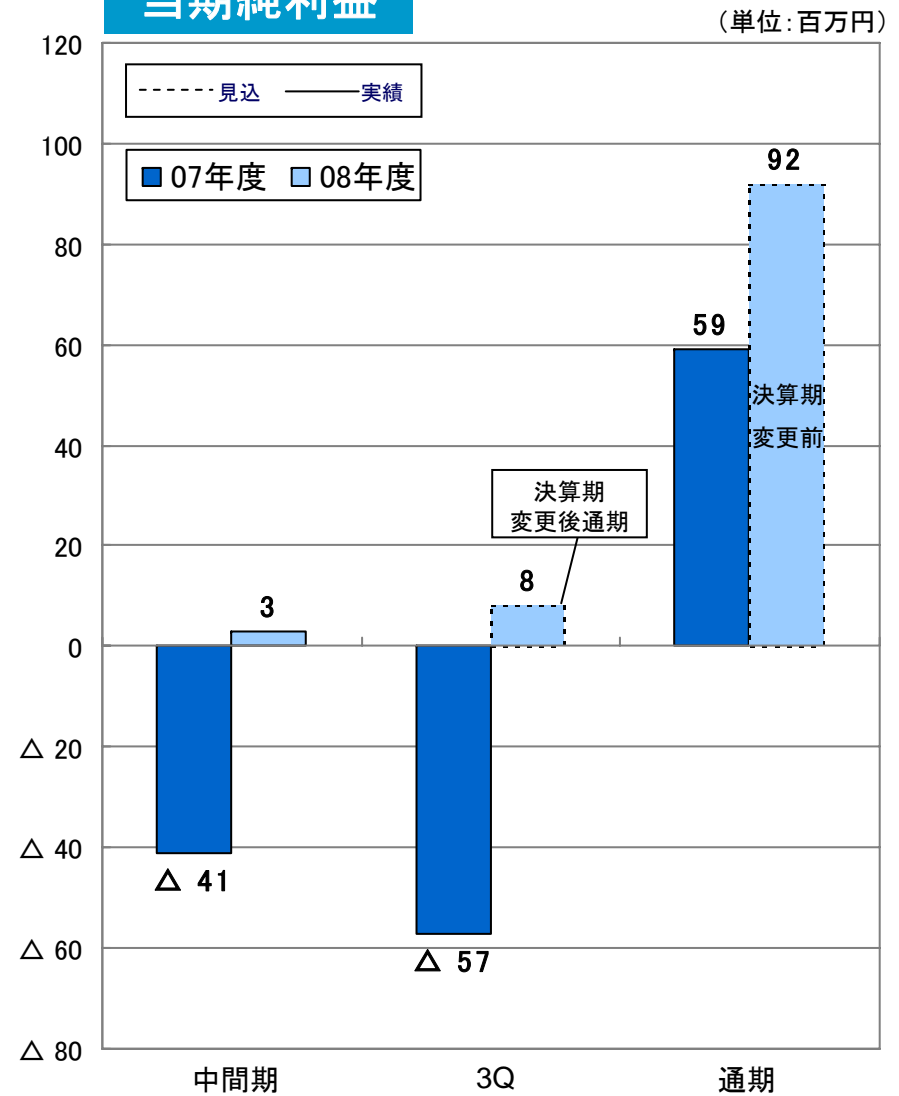


2007年12月期通期業績予想

経常利益



当期純利益

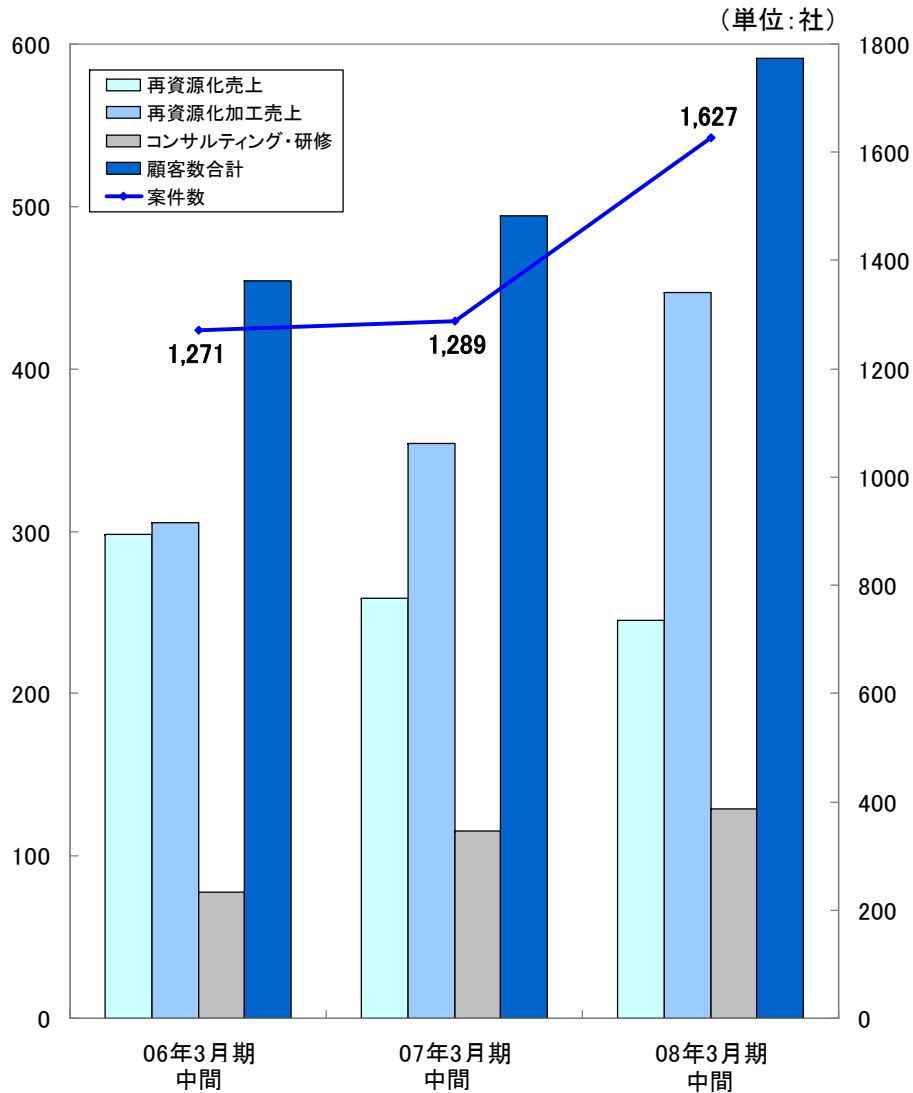


※07年度通期の数値のみ、連結の数値となっております。
 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。
 実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。



顧客数の推移

顧客数推移－中間期



顧客数97社増加(07年3月期中間比較)

(単位:社)	06年3月期中間 (単独)	07年3月期中間 (単独)	08年3月期中間 (単独)
再資源化業務	298	259	245
再資源化加工業務	305	354	447
コンサルティング・研修他	78	115	129
顧客社数合計	454	494	591
案件数	1,271	1,289	1,627

業種	07年3月期中間構成比
製造業	63.0%
商業	8.6%
サービス業	8.3%
その他	20.1%

1、営業力の強化

- ①ソリューション型の新しい営業スタイルへ営業手法の転換
→07年4月組織改変にてソリューション部の人員増強を実施
- ②無料セミナー、電話、FAX等の活用で得た情報の資産化・有効利用
→需要に応じた無料セミナーの定期的開催、中間期参加社数67社
→07年4月よりREPの設置・稼動
- ③営業所の統合再編による顧客対応の強化及び効率化
→07年4月1日:東京、大宮、静岡、名古屋、大阪、姫路の国内6営業所を、東日本、中部、西日本の3サービスセンターに統合

2、再資源化加工能力の強化

- ①関東での製造拠点の運営強化
→07年4月1日:日化スミエイト株式会社吸収合併(現茨城循環資源製造所)
→既存製造所の設備増強

3、新サービスの拡充

- ①京丹後市でのバイオガス発電施設の継続的な安定運用
→安定的な運用を実施し、コスト削減施策を検討
- ②持続可能経済研究所での農林水産業へのコンサルティング領域拡大と質の向上
→人員増強により、案件受注の増加
- ③FSC「森林管理認証」と、MSC・COC「水産物の加工流通過程の管理認証」のサービス拡大
→案件受注増加、下期以降に寄与

利益配分に関する方針

07年12月期1株当たりの配当予想


07年10月15日に発表しました通り、当社は決算期の変更を予定しております。
(毎年3月31日から毎年12月31日へ)

決算期が変更された場合の07年12月31日の配当予想は、当初の08年3月期末
配当予想の4分の3にあたり、1株あたり36円を見込んでおります。

(単位:円)

	中間配当	期末配当	年間配当
07年3月期実績	—	32.00	32.00
× 08年3月期予想	—	48.00	48.00
07年12月期予想	—	36.00	36.00

当社は、利益配分につきましては、財務体質と経営基盤の強化をはかるとともに、
必要な内部留保を確保しつつ、業績に応じて適切な利益還元を継続的に実施していきます。



参考資料



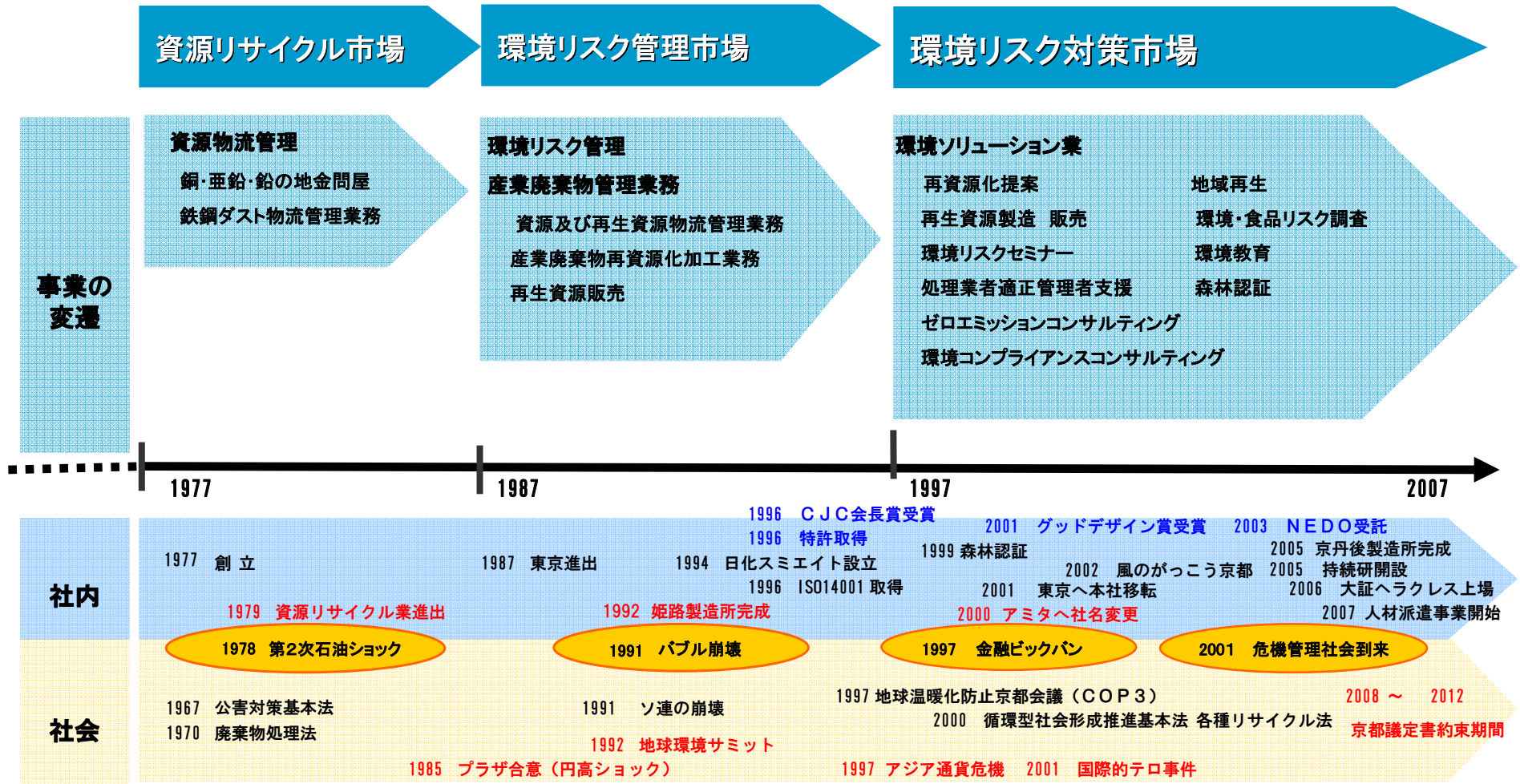
会社概要

会社概要

■ 社名	アマタ株式会社
■ 事業内容	環境ソリューション業
■ 代表取締役	熊野 英介
■ 設立	1977年4月
■ 資本金	470百万円
■ 従業員数	163名(2007年9月末日現在)
■ 発行済み株式数	579,310株
■ 単元株主数	361名(2007年9月末日現在)
■ 本社	東京都千代田区三番町28番地
■ サービスセンター	東日本サービスセンター(東京都) 中部サービスセンター(愛知県) 西日本サービスセンター(大阪府)
製造所	茨城循環資源製造所(茨城県) 京丹後循環資源製造所(京都府) 姫路循環資源製造所(兵庫県) 循環資源開発センター(兵庫県)
研究所	持続可能経済研究所(京都府)



過去30年のビジネスモデルの変遷



20世紀の環境モデルから21世紀の環境モデルへ

事業内容

現状 アミタのビジネスモデル

アマタのソリューションmenu

ドゥタンク事業 自然資源の再生

CSRコンサルティング事業 社会的な環境リスク低減

リサイクルソリューション事業 リサイクル業務の合理化

認証事業 適切な森林・漁業経営のための認証

1-1. ドウタンク事業

地域再生・自然再生事業のプロデュース

調査・研究

人材育成



持続可能経済研究所

農業、林業、水産業それぞれの
専門家を擁し、京都市にある古い
町屋を改装した事務所を拠点として、
事業プロデュースと調査・研究、
人材育成を推進

持続不可能な地域・社会・経済

リサーチ



コンサルティング



事業化



オペレーション



Think

Do

自然資本に立脚した持続可能な経済システムの構築に向けて
独自のソリューションを提供

持続可能な地域・社会・経済

1-2. ドウタンク事業

持続可能経済研究所のコンサルティングサービス

探す

①フィールドワークによる定性分析

人と自然の関係を、綿密なフィールドから明らかにします。
わたしたちは常に現場から発想します。



計る

②計量経済学、環境経済学による定量分析

自然回復の経済効果、リスク管理の経済効果などを定量的に示し、的確で円滑な判断や合意形成をサポートします。

$$\Delta Z_t = \mu + \Pi Z_{t-1} + \Gamma_t \Delta Z$$
$$\Delta Z_t = \mu + \Pi Z_{t-1} + \sum_{i=1}^n \Gamma_i$$

描く

③プランニング、制度・事業の設計

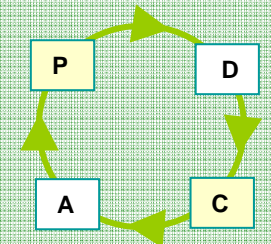
美しく豊かな生活環境を再生させていくための具体的な道筋を、地域の方々とともに考え、明らかにします。



回す

④PDCA管理の支援

プランを実行に移した成果を、経済分析などによって定量的に評価し、適切なPDA管理を支援します。



2-1. CSRコンサルティング事業

廃棄物マネジメント研修サービス



廃棄物管理セミナーの実施

- ・廃棄物管理の法と実務セミナー
- ・適正な廃棄物管理のためのセミナー等



廃棄物管理教育VTR販売

- ・廃棄物管理の手順とポイントがわかるビデオ
- ・現地確認がよく分かるビデオ
- ・契約書がよく分かるビデオ等



通信教育の実施

- ・廃棄物管理の法と実務講座



再資源化カタログ作成

リサイクルFAX通信

コンプライアンスコンサルティング

環境に関わる法的リスク低減を的確にサポート

- 「廃棄物リスク診断サービス」
不法投棄防止や自社の廃棄物管理体制の確立

- 「処理業者適正管理支援サービス」
委託している処理業者の適正・適法管理を支援

現状調査・ヒアリング

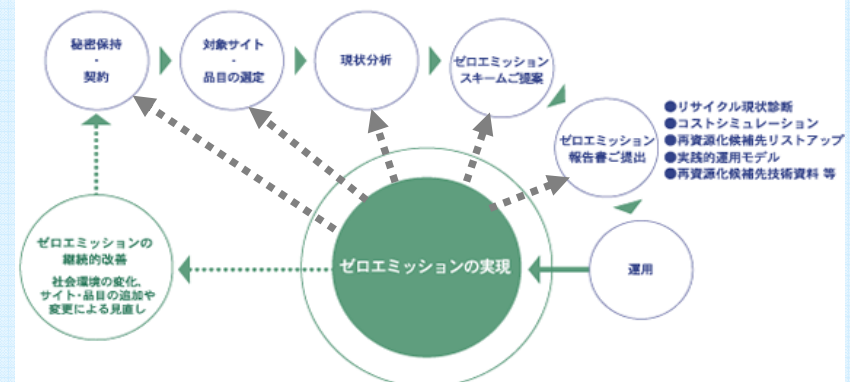
分析報告書作成

報告会、研修の実施などの
アフターフォロー

ゼロエミッションコンサルティング

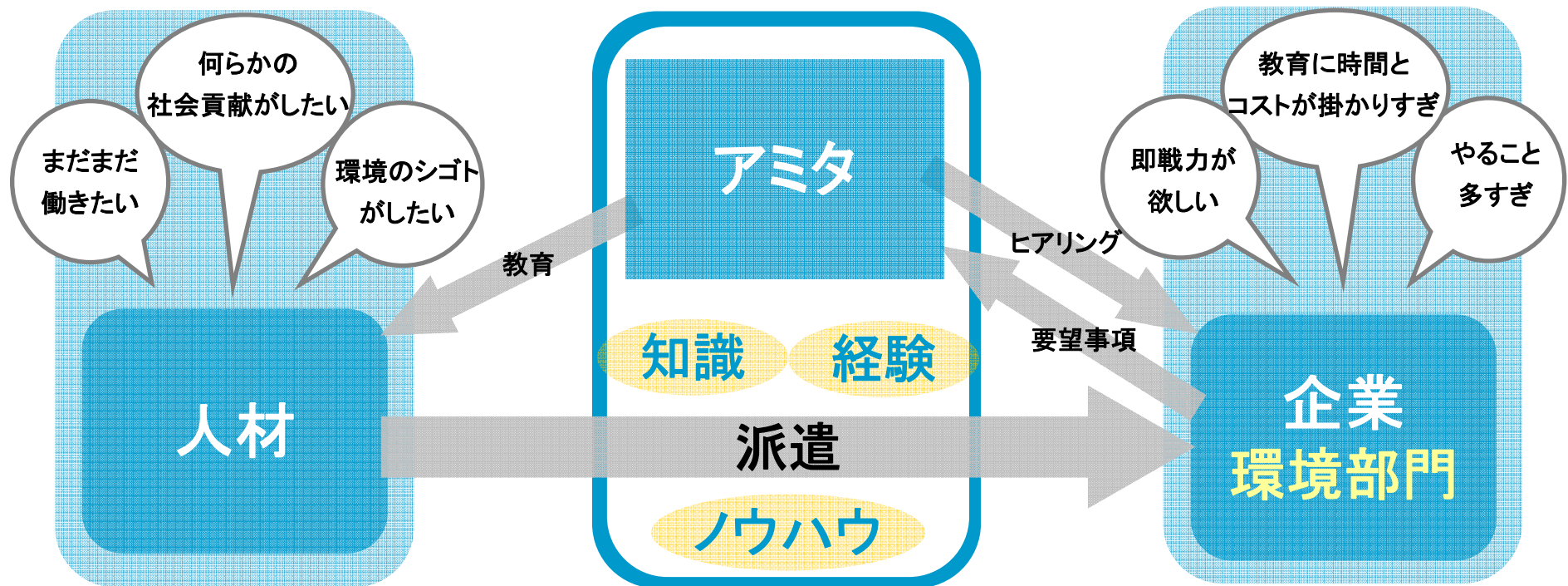
お客様と一緒に運用の仕組み作りや見直しを行い、ゼロエミッションの達成と維持をバックアップ

[状況に応じたプロセスの実施]



環境リスク低減をサポートする知識・ノウハウを提供

アマタが培ってきた環境負荷低減の知識、ノウハウを元に人材を教育、派遣

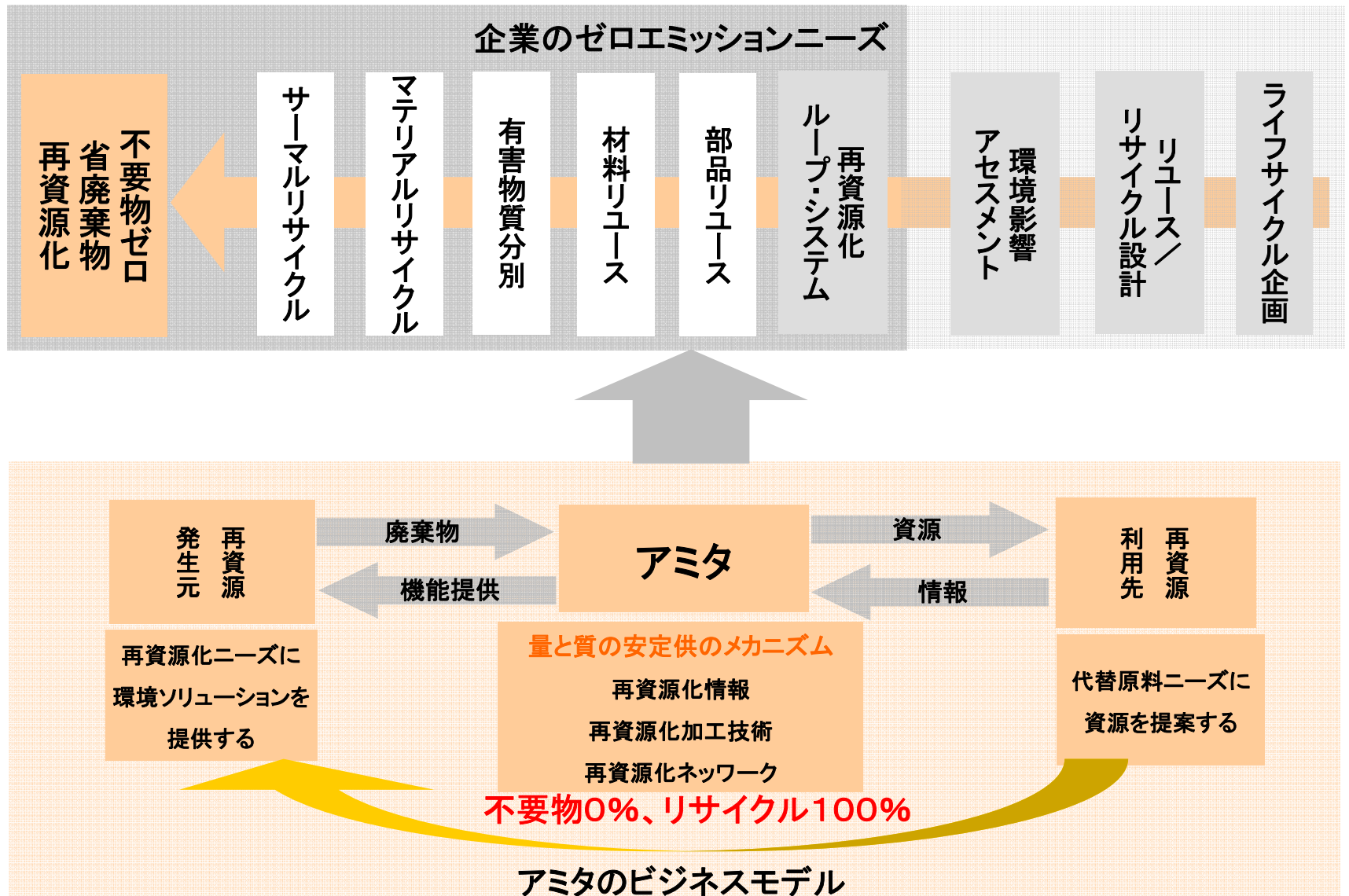


国内初、環境分野専門の人材の教育及び派遣業務

許可番号 特13- 306412

3-1. リサイクルソリューション事業

アマタの次世代型オンデマンド・ビジネスモデル



3-2. リサイクルソリューション事業

再資源化業務・再資源化加工業務の流れ



3-3. リサイクルソリューション事業—循環資源製造所

姫路循環資源製造所

- 所在地 兵庫県姫路市網干区
- 製造開始 1992年
- 従業員数 25名(従業員15名、他10名)
- ISO規格 ISO14001:2004
JIS Q 14001:2004
- 再資源化加工方法
 - ・混合調整による燃料リサイクル
【液体燃料:液体補助燃料(スラックス(R))】
 - ・混合調整による原料リサイクル
【セメント原料化:原料系・燃料系/金属原料化:ニッケル系・銅系】
 - ・破碎による原料リサイクル
- 処理能力 スラックス 36,500t/年
セメント原料 43,800t/年
金属原料 52,560t/年
※1日8時間、年365日稼働で算出



茨城循環資源製造所

- 所在地 茨城県筑西市下江連
- 製造開始 1995年
- 従業員数 12名(従業員3名、他9名)
- ISO規格 ISO14001:2004
JIS Q 14001:2004
- 再資源化加工方法
 - ・混合調整による燃料リサイクル
【液体燃料:液体補助燃料(スラックス(R))】
 - ・混合調整による原料リサイクル
【セメント原料化:原料系・燃料系】
- 処理能力 スラックス 54,750t/年
セメント原料 43,800t/年
※1日8時間、年365日稼働で算出



4. 認証事業

FSC森林認証

森林管理認証

- ・森林が環境的に適正で、社会利益にかない、経済的にも継続可能な方法で管理されている事を認証

COC (Chain of Custody) 認証

- ・木材製品加工流通過程での正しい製品の取扱を認証
- ・加工流通業者対象



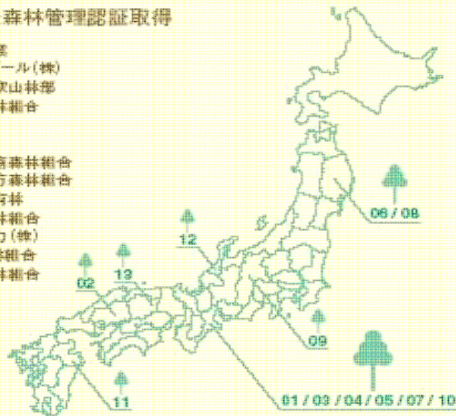
FSC-SECR-0095



FSC Trademark © 1996 Forest Stewardship Council A.C.

AMITAが関与した森林管理認証取得

- | | |
|----------|----------|
| 01. 三重県 | 連水林業 |
| 02. 広島県 | アサヒビル(株) |
| 03. 三重県 | 吉田本歌山林部 |
| 04. 三重県 | 宮川森林組合 |
| 05. 三重県 | 尾鷲市 |
| 06. 岩手県 | 岩泉町 |
| 07. 三重県 | 松阪断南森林組合 |
| 08. 岩手県 | 気仙地方森林組合 |
| 09. 長野県 | 大岡町有林 |
| 10. 三重県 | 中勢森林組合 |
| 11. 大分県他 | 九州電力(株) |
| 12. 石川県 | かが森林組合 |
| 13. 岡山県 | 美作森林組合 |



アマミタは、FSCに認定されたイギリスの認証機関であるソイル・アソシエーションウッドマークの日本パートナーです。



MSC漁業認証

漁業管理認証

- ・資源・環境・社会に配慮して営まれる持続可能で適切な漁業を認証

COC (Chain of Custody) 認証

- ・水産物加工流通過程での正しい製品の取扱を認証
- ・加工流通業者対象



MSCI0128
www.msc.org



www.tqcsi.com

アマミタは、MSCに認定されたオーストラリアの認証機関であるTQCSIと提携し、日本でMSC COC認証審査を実施しています。

アマタ株式会社

IR担当窓口

TEL : 03-5215-8262

FAX : 03-5215-8260

email : info@amita-net.co.jp

本資料は、当社の企業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2007年11月20日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、または約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。